

2011年 関西大学 人間健康学部 シンポジウム

日本社会における『支えあい』について考える — 東日本大震災をきっかけとして

2011年3月11日の東日本大震災によって日本社会は未曾有の災害を受けました。
しかし、震災後の日本人の行動に、世界から称賛の声が上がるなど、
これまでの日本社会が忘れていた相互扶助(支えあい)の側面も見せてくれました。
そして、被災地の復興を目の当たりにして、これからの日本社会を考えていくうえで、
「支えあい」がひとつのキーワードになると思います。
そこで、本年のシンポジウムでは
「日本社会における『支えあい』について考える—東日本大震災をきっかけとして」と題して、
基調講演、シンポジウムを通して、これからの日本社会における
支えあいの在り方について一緒に考えていきたいと思います。

2011年12月11日(日) 13時30分～16時30分

場 所 関西大学 堺キャンパス SB302教室

対 象 堺市民、関西大学学生、教職員、その他300名(申込み制) ※お申込方法は裏面をご参照ください。

参加費 無料

基 調 講 演

13時30分～15時00分

ほんとうに相手の支えになるために — 回復力につなげるリーダーシップを求めて



神戸大学大学院 経営学研究科長・経営学部長
金井 壽宏

ほんとうに意味のある形で、個人、集団、組織、コミュニティ、社会を変えるのに役立つのであれば、社会科学には意味がない。そういう姿勢で実践的に研究する方法を、アクション・リサーチといいます。この立場で、相手にほんとうに役立つように接する方法として、エドガー・H.シャインは、プロセス・コンサルティングという方法をさらに発達させて、支援学を提唱しております。この考えを紹介しながら、大きな困難に直面したときに、そこから回復(さらにいえば、超回復)していく支えとなるようなリーダーシップを、皆さんといっしょに考えてみたいと思っています。

シンポジウム

15時00分～16時30分

支えあい：健康づくりの現場から

関西大学 人間健康学部教授
弘原海 剛

支えあい：笑いの現場から

関西大学 人間健康学部教授
森下 伸也

支えあい：グリーフケアの現場から

関西大学 人間健康学部助教
金子 絵里乃

コーディネーター 関西大学 人間健康学部教授
杉本 厚夫

主催 関西大学 人間健康学部

2011年 関西大学 人間健康学部シンポジウム

日本社会における『支えあい』について考える ― 東日本大震災をきっかけとして

講師プロフィール

基調講演



テーマ ほんとうに相手の支えになるために ― 回復力につなげるリーダーシップを求めて

金井 壽宏[かない としひろ] 神戸大学大学院 経営学研究科長・経営学部長

1954年生まれ。78年京都大学卒業。MIT(マサチューセッツ工科大学)でPh.D.(マネジメント)取得。現在、神戸大学大学院経営学研究科教授。変革型リーダーシップ、創造的なネットワーク、キャリア発達、モチベーション論が主たるテーマ。著書は、『働くひとのためのキャリア・デザイン』(PHP研究所、02年)、『仕事で「一皮むける」』(光文社、02年)、『リーダーシップ入門』(日経文庫、2005)、『働くみんなのモチベーション論』(NTT出版、06年)『やる気!攻略本』(ミシマ社、08年)『人を助けるとはどういうことか』(E.H.シャイン著、英治出版、監訳と解説、2009年)など多数。

シンポジウム



テーマ 支えあい：健康づくりの現場から

弘原海 剛[わだづみ つよし] 関西大学 人間健康学部教授

「ヒトが一人では生きていけないように、健康づくりも周りの人と支え合えば、きっと上手くいくでしょう!」
「健康」とは、無くてはならない大切なもの。そんな「健康」をつくるヒントについてお話します。

大阪府立大学、流通科学大学を経て現職。専門は運動生理学、運動処方。現在、実験系の研究を進めるかわら、高齢者を対象とした「生きがいと健康」を研究テーマとしている。関西大学人間健康学部では、運動生理学の知識を基礎とした、唄って踊れるエンターテインメント運動指導ができる人材を育成することが夢であり、将来、学生達と一緒に地域の健康づくり活動に貢献したいと思っている。



テーマ 支えあい：笑いの現場から

森下 伸也[もりした しんや] 関西大学 人間健康学部教授

苦しいときこそ笑いの底力の見せどころ。ひとは楽しいから笑うのですが、苦しいとき笑うと不思議な生命力が湧いてくるのです。いったいそれはなぜでしょう? サバイバル力の根源としての笑いについて考えます。

長崎大学、ウィーン大学、金城学院大学などを経て現職。専門は社会学、ユーモア学。日本笑い学会会長、日本ホスピタル・クラウン協会理事。著書に、『ユーモアの社会学』、『もっと笑うためのユーモア学入門』、『逆説思考』など。



テーマ 支えあい：グリーフケアの現場から

金子 絵里乃[かねこ えりの] 関西大学 人間健康学部助教

人は誰でも人生のなかで喪失体験を積み重ねています。
東日本大震災によって、多くの人がたいせつな人を亡くし、これまでに体験したことのないグリーフ(悲嘆)を抱えています。グリーフやそのケアについて一緒に理解を深めていきたいと思います。

法政大学、同志社大学を経て現職。専門は死生学、ソーシャルワーク。さまざまな原因でたいせつな人を亡くした人やその援助に携わっている援助者向けのワークショップやサロンを行っている。著書として『ささえあうグリーフケア:小児がんで子どもを亡くした母親のライフ・ストーリー』など。



コーディネーター

杉本 厚夫[すぎもと あつお] 関西大学 人間健康学部教授

広島大学、京都教育大学を経て現職。専門はスポーツ社会学、臨床社会学、子ども文化論。実際に、子どもたちとキャンプをしたり、遊んだりして実践的な研究を行っている。著書に『「かくれんぼ」ができない子どもたち』(ミネルヴァ書房)ほか。

申込方法

FAXまたはハガキにて、①郵便番号・住所②お名前・ふりがな③電話番号をご記入の上、締切日必着でお送りください。講座開催の3日前までに聴講券を送付いたしますので、当日ご持参ください。

定員

300名。応募者多数の場合は、抽選にて決定。当選者・落選者ともに通知いたします。

申込締切日

11月25日(金) 必着

宛先

関西大学 堺キャンパス「人間健康学部シンポジウム」係

【住所】〒590-8515 大阪府堺市堺区香ヶ丘町1-11-1

FAX 072-229-5082

※番号のお掛け間違いにご注意ください。
※TEL: 072-229-5022

会場案内 関西大学 堺キャンパス SB302教室



南海高野線「浅香山」駅
(なんば駅から約20分)下車、すぐ。

▼FAX送信用紙 2011年 関西大学 人間健康学部シンポジウム

住所	〒 ー		
ふりがな	ー		
氏名	電話番号	ー	ー

※ご記入いただいた個人情報は、本シンポジウム開催に際しての管理・連絡のためにのみ使用し、本人の同意なく第三者に提供することはありません。